学校番号	3016

令和５年度　工業科（産業創造系）

教科	工　業	科目	染織デザイン	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	７実教「工業 372 染織デザイン」（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

課題に取り組む上で、問題解決の過程を大切にさせ、主体的・体験的な学習活動を行う。
織物や編物や染色加工による具体化では、多くの具体例や実習の内容をもとに授業を展開する。

2　学習の到達目標

繊維製品の染と織のデザインに関する知識と技術を習得させ，実際に活用する能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	繊維製品全般の造形性と審美性に興味･関心を持ち、演習課題では素材の研究や表現材料の効果を追求し、学習に取り組む意欲や態度が見られる。	歴史的な染織物をはじめとする各種のデザイン作品や芸術品の鑑賞を通じて、美的感受性が養い、伝統と流行に対するバランス良い思考や判断ができている。また、豊かで斬新な発想の表現につなげることができる。	形態の原理などの造形基礎や色彩理論の内容をもとに、描画材料の特徴や用具の使用に関する適切な技術を持ち、作品に効果的に活用できている。	織物や編物などの製造技術ならびに染色や仕上げなどの加工技術についての知識やデザインとの密接な関係を各分野での具体例より理解している。人間にとって快適なデザインとは何かを追求し、生活のためのデザインの意味を理解できている。
評価方法	定期考査 授業態度 ファイル等の提出物 作品 小テスト等	定期考査 授業態度 ファイル等の提出物 作品 小テスト等	定期考査 授業態度 ファイル等の提出物 作品 小テスト等	定期考査 授業態度 ファイル等の提出物 作品 小テスト等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	テキスタイルと造形	テキスタイルと人とのかかわり テキスタイルとデザイン 基礎造形 ペーパーデザインの表現技法 感性と評価	◎ ○	◎ ◎	○ ◎	◎	a:基礎造形の学習により美的形式の原理に興味関心を持つことができる b: 布を使った造形演習を通して素材としての機能的性質の理解や審美性の追求ができる c: 描写観察による形態の構成やテクスチャーの表現技法を習得している d: 口絵や図、あるいは実際の布を見てテキスタイルの歴史についての知識を理解している	定期考査 授業態度 ファイル等の提出物 作品 小テスト等
一学期 二学期	染めと織りのデザイン	テキスタイルデザイン デザインのための色彩 テキスタイルパターンの特徴 テキスタイルの基礎描法	○ ◎	○	◎ ○ ◎	◎ ○	a: 色彩を含めた視覚の法則について体験により興味・関心を持ち、学習している b: 比例に見られる美的秩序を考慮した作図を通してデザイン表現ができている c: ペーパーデザインに必要な用具の使用法やテクスチャーの描画法を習得できている d: 単位図形の構成からパターンの骨組み、リピートのつけ方までパターンデザインの流れを理解できている	定期考査 授業態度 ファイル等の提出物 作品 小テスト等
二学期	デザインの具体化	先染めと後染め 織り・編み（ニット）によるデザインの具体化 染色加工によるデザインの具体化 デザインとコンピュータ	◎	◎ ○	○ ◎	◎	a: 意匠図のテキスタイルへの具体化や製品化への興味・関心が持ち、学習している b:伝統工芸の作品に触れ、各自のオリジナル作品への表現に活かすことができている c: 手ぬぐいやタオルなどのデザインに対するモチーフの選定からパターン作成を習得している d: 伝統的な染色技法の理解している	定期考査 授業態度 ファイル等の提出物 作品 小テスト等
三学期	装飾様式と室内装飾	伝統と先端 工業デザインの応用	◎	◎	◎	◎	a: 歴史的文様の模写により、世界の装飾様式に興味・関心を持ち、学習している b:アパレルインテリア製品の研究を通じて機能性や感性に応じたものが提案できる c: スタイル画を描く練習を通して、プロポーションのとりかたや描き方を体得している d: 西洋の装飾文様とわが国の伝承文様について歴史的背景や名称の由来をそれらの染織技術とともに理解している	定期考査 授業態度 ファイル等の提出物 作品 小テスト等

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解